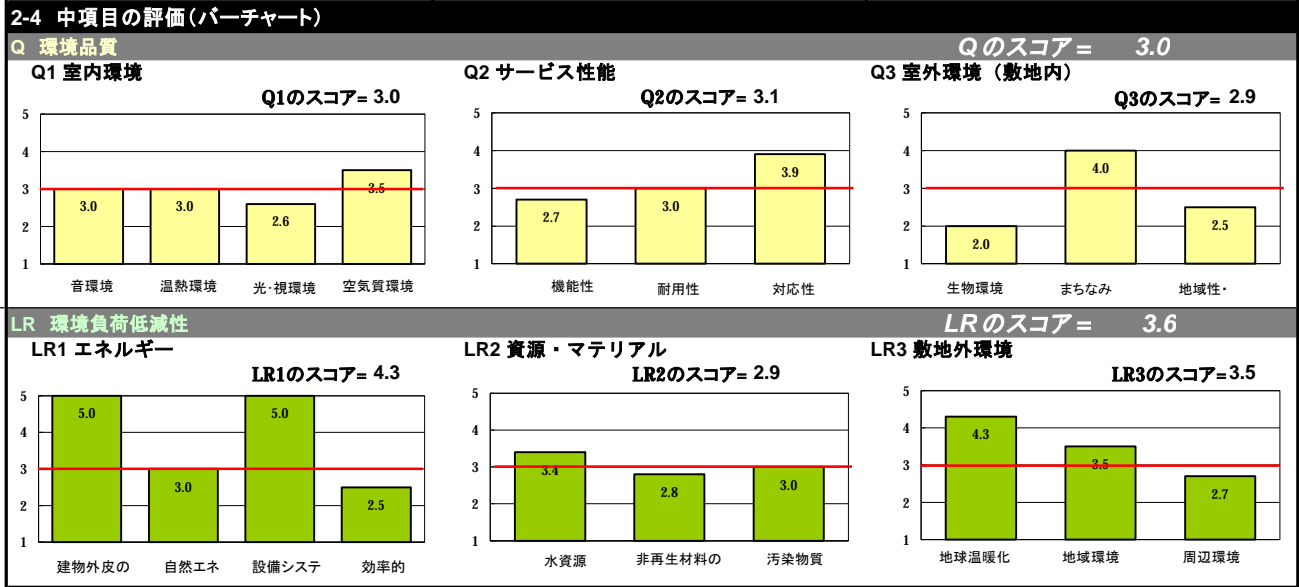
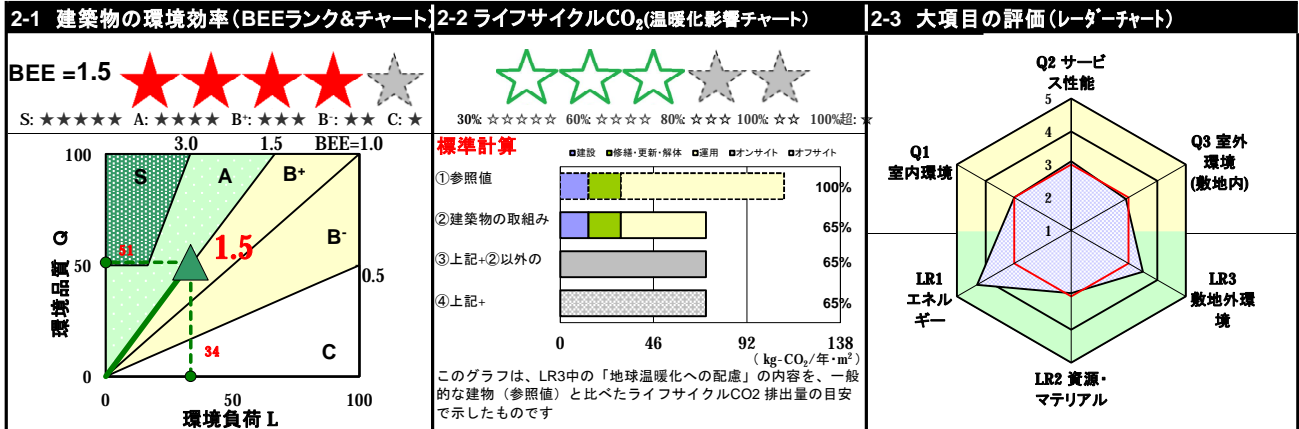


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)八尾市物流施設計画	階数	4
建設地	大阪府八尾市二俣	構造	S造
用途地域	市街化区域、準防火地域	平均居住人員	2,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年8月 予定	評価の実施日	2024年1月16日
敷地面積	11,852 m ²	作成者	松本真治
建築面積	6,114 m ²	確認日	2024年1月16日
延床面積	24,016 m ²	確認者	松本真治



3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>最寄り駅「志紀駅」より徒歩約10分程の場所に位置している。 建築物付近の建物は工場や倉庫が多く、街並みに馴染んでいる。</p>		<p>その他</p> <p>太陽光発電設備を設置</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>F☆☆☆☆の建材を使用し、できる限り汚染物質を排出しないように努めている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>階高は6.8mとゆとりのある設計をしている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>植栽を設けて良好な景観づくりをしている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>節水型機器を使用し、水資源に配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>再利用が可能なユニット部材の採用にて資源保護に配慮し、デッキスラブには、ニューフェローデッキ(鉄筋トラス捨て型枠床版工法)を採用し、省資源へ配慮した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>燃焼機器を使用しておらず、大気汚染を防止に努めている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)八尾市物流施設計画					
	建設地	大阪府八尾市二俣					
	用途/区分	工場 事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.3	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項	燃焼機器を使用しておらず、大気汚染を防止に努めている。	